

クリ新品種「杉光」の高接ぎ樹の中間台木別の初期生育と果実品質

クリ新品種「杉光」は樹体生育や果実品質に中間台木の品種による大きな差は見られないため、「国見」を中間台とした高接ぎ更新によって「杉光」を導入しても高接ぎ後初期段階では問題はない。

農業研究センター 球磨農業研究所 (担当者: 岩谷 章生)

研究のねらい

本県オリジナルのクリ新品種「杉光」は平成13年より県推奨品種となり、「国見」の代替品種として普及面積500haを目標に導入が進められている。現在、「杉光」の導入には「国見」を中間台木とした高接ぎ更新による方法が主であるが、「国見」が「杉光」の中間台木として適しているのか明らかではなかった。そこで、「国見」が「杉光」の中間台として適するかを明らかにする。

研究の成果

1. 初期生育には中間台の品種間で差がみられるが、1㎡あたりの収量や結果母枝長については品種間差はみられない。
2. 健全果率は「筑波」中間台でやや低く、「国見」中間台でやや高かった。また、「国見」中間台では裂果が少なかった。
3. 1果重は「国見」中間台でやや小さい傾向がみられたが、いずれの品種でも2L以上の果実がほぼ9割であった。果実比重は「国見」と「筑波」中間台が「紫峰」中間台よりやや大きかった。

以上のことから、中間台木の品種が「杉光」の接ぎ木後初期の樹体生育や果実品質に及ぼす影響は少ない。よって、「国見」を中間台とした高接ぎ更新によって「杉光」を導入しても特に問題はない。

普及上の留意点

1. 高接ぎ後は、「杉光」の生育が阻害されないように、台芽欠きを徹底する。
2. 「杉光」は高接ぎ後、初結果時に着穂過多となり、新梢伸長が悪くなる場合がある。次年度の優良結果母枝確保のため、初結果の年の結果母枝を多く残しすぎないようにする。

[具体的データ]

表1 中間台木別の樹体生育及び収量

中間台 品種	収量 (kg/樹)	樹冠面積 (m ²)	収量 (kg/m ²)	樹高 (m)	結果母枝長 (cm)
国見	5.74	2.33	2.46	4.0	46.0
筑波	6.96	3.35	2.08	4.7	46.1
紫峰	6.27	2.82	2.22	4.3	45.0

注) 全区7年生樹に高接ぎ後(一挙更新)3年目

表2 中間台木別の果実内容

中間台 品種	健全果率 (%)	不良果内訳(%)				
		裂果	病害	虫害	未熟果	その他
国見	65.2	8.6	3.8	2.6	17.7	2.1
筑波	54.9	18.2	7.7	4.8	12.9	1.5
紫峰	60.3	15.4	4.7	3.1	14.8	1.7

注) 全区7年生樹に高接ぎ後(一挙更新)3年目

表3 中間台木別の果実品質

中間台 品種	1果重 (g)	2L以上果率 (%)	果実比重
国見	27.4	88	1.070
筑波	29.0	94	1.069
紫峰	29.0	94	1.060

注) 全区7年生樹に高接ぎ後(一挙更新)3年目



写真1 「筑波」中間台の「杉光」



写真2 「紫峰」中間台の「杉光」



写真3 「国見」中間台の「杉光」